

【プレゼンテーション資料】

## 2009年度 連結業績および ソニー生命のMCEV速報

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社  
2010年5月20日

# 目次

■ 2009年度 連結業績	2～27
■ ソニー生命の2010年3月末MCEV【速報】	28～29
■ 補足資料	30～35

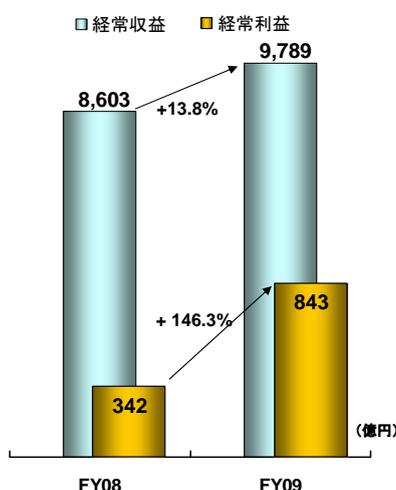
#### 免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見通しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

## 2009年度 連結業績

2009年度 連結業績

# 連結業績ハイライト



(億円)		FY08	FY09	前年度比	
生命保険事業	経常収益	7,662	8,820	+1,158	+15.1%
	経常利益	325	797	+472	+145.2%
損害保険事業	経常収益	618	681	+62	+10.2%
	経常利益	21	25	+3	+17.8%
銀行事業	経常収益	333	305	▲28	▲8.6%
	経常利益	▲5	19	+25	—
全社又は消去	経常収益	▲11	▲17	▲5	—
	経常利益	1	0	▲0	▲7.8%
SFHG連結	経常収益	8,603	9,789	+1,186	+13.8%
	経常利益	342	843	+501	+146.3%
	当期純利益	307	481	+174	+56.7%

(億円)		09年3月末	10年3月末	前年度末比	
SFHG連結	総資産	53,136	60,010	+6,874	+12.9%
	純資産	2,048	2,694	+645	+31.5%

金額は億円単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

3

ソニーフィナンシャルホールディングスグループの連結経常収益は、銀行事業では減少したものの、生命保険、損害保険事業で増加した結果、前年度に比べ**13.8%**増加し、**9,789**億円となりました。連結経常利益は、すべての事業で増益となり、**501**億円増加し、**843**億円となりました。連結当期純利益は、**174**億円増加し、**481**億円となりました。

今回の決算のポイントにつきましては、次のように認識しております。

生命保険事業については、主力の死亡保障の販売が概ね好調に推移し、当年度も保有契約高が堅調に推移しました。また、資産運用については、比較的良好な金融市場環境下において資産運用損益が大幅に改善しました。ソルベンシー・マージン比率の水準についても、保険会社としての健全性維持に十分なレベルにあると認識しております。

損害保険事業については、新規契約の獲得が好調に推移し、正味収入保険料は前年度に比べ、**2桁**成長となりました。

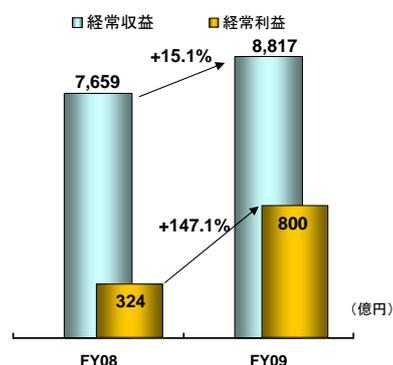
銀行事業については、世界的な低金利環境下で減収となったものの、支払い預金利息の減少および住宅ローン残高の増加により、資金運用収支が増加し、経常利益では増益となりました。

## 連結業績ハイライト



- 生命保険事業では、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、比較的良好な金融市場環境下において資産運用収益が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、経常収益の増加に加え、当年度は保有有価証券の減損処理額が大幅に減少したことなどにより増加。なお、前年度においては、危険準備金および価格変動準備金を取り崩したが当年度は繰り入れになった。
- 損害保険事業では、主力の自動車保険で保有契約件数が増加したことにより正味収入保険料が増加し、経常収益は増加。経常利益は、正味損害率が上昇するも、増収および正味事業費率の低下などにより増加。
- 銀行事業では、経常収益は世界的な金利低下の影響により減少したものの、資金調達費用の減少および住宅ローン残高の順調な増加などにより資金運用収支が増加したことから、経常利益は増加。
- 連結経常収益は、前年度比13.8%増の9,789億円。連結経常利益は、前年度比501億円増加の843億円。連結当期純利益は、前年度比174億円増加の481億円。
- 連結総資産は前年度末比6,874億円増加の6兆10億円。連結純資産は前年度末比645億円増加の2,694億円、うち、その他有価証券評価差額金は前年度末比223億円増加の175億円。

# ソニー生命 業績ハイライト(単体)



## 【ソニー生命】

- ◆前年度比 増収増益
- ◆保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加
- ◆資産運用収益は増加
- ◆経常利益は、増収に加えて、当年度は保有有価証券の減損処理額が大幅に減少したことなどにより増加

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)	FY08	FY09	前年度比	
経常収益	7,659	8,817	+1,158	+15.1%
保険料等収入	6,620	7,001	+380	+5.8%
資産運用収益	987	1,753	+766	+77.6%
うち利息及び配当金等収入	558	706	+148	+26.6%
うち金銭の信託運用益	—	228	+228	—
うち有価証券売却益	321	151	▲170	▲53.0%
うち特別勘定資産運用益	—	627	+627	—
経常費用	7,335	8,016	+681	+9.3%
保険金等支払金	2,747	2,742	▲5	▲0.2%
責任準備金等繰入額	2,190	3,955	+1,765	+80.6%
資産運用費用	1,337	205	▲1,131	▲84.6%
うち有価証券売却損	161	100	▲60	▲37.7%
うち有価証券評価損	318	—	▲318	▲100.0%
うち特別勘定資産運用損	722	—	▲722	▲100.0%
事業費	939	968	+29	+3.1%
経常利益	324	800	+476	+147.1%
当期純利益	337	461	+123	+36.6%
(億円)	09.3末	10.3末	前年度末比	
有価証券残高	28,196	35,391	+7,194	+25.5%
責任準備金残高	35,923	39,856	+3,932	+10.9%
純資産額	1,407	1,913	+505	+35.9%
その他有価証券評価差額金	40	154	+114	+285.0%
総資産額	38,109	42,865	+4,756	+12.5%
特別勘定資産	2,751	3,736	+984	+35.8%

5

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移による保険料等収入の増加、および資産運用収益の増加により、前年度に比べ**15.1%**増加し、**8,817億円**となりました。

保険料等収入は、保有契約高の増加にともない前年度に比べ**5.8%**増加し、**7,001億円**となりました。資産運用収益は、株価上昇により特別勘定の資産運用状況が改善したこと、および超長期債の保有残高の増加にともない利息及び配当金等収入が増加したことなどにより、前年度に比べ**77.6%**増加し、**1,753億円**となりました。

経常利益は、増収および当年度は保有有価証券の減損処理額が大幅に減少したことなどから、前年度に比べ**147.1%**増加し、**800億円**となりました。

当期純利益は、前年度の価格変動準備金**204億円**の戻し入れが当年度は**59億円**の繰り入れに転じたものの、前年度に比べ**36.6%**増加し、**461億円**となりました。

# ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY08	FY09	増減率
新契約高	38,737	40,492	+4.5%
解約・失効高	21,351	23,424	+9.7%
解約・失効率	6.79%	7.21%	+0.42pt
保有契約高	325,176	334,707	+2.9%
新契約年換算保険料	616	687	+11.5%
うち第三分野	134	162	+21.0%
保有契約年換算保険料	5,478	5,733	+4.6%
うち第三分野	1,266	1,330	+5.0%

## <主な増減要因>

◆ 2009年11月発売の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の販売が好調。一部お客様において、より合理的な保険商品への買い替えが進んだ影響等があったものと分析。

◆ 2009年4月発売のがん入院保険、および生前給付保険の販売好調の効果などにより第三分野が大幅に増加。

(単位:億円)	FY08	FY09	増減率
資産運用損益(一般勘定)	372	920	+147.4%
基礎利益	380	645	+69.8%
逆ざや額	213	115	▲46.0%

◆ 保有有価証券の減損処理額が大幅に減少したこと、利息及び配当金等収入が増加したことなどにより、増加。

◆ 保険料等収入の増加、利息及び配当金等収入の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が減少したことなどにより増加。

	09.3末	10.3末	増減
ソルベンシー・マージン比率	2,060.5%	2,637.3%	+576.8pt

◆ 増益、含み損益の増加、資産運用リスクの低下などにより、大幅に上昇。

※新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

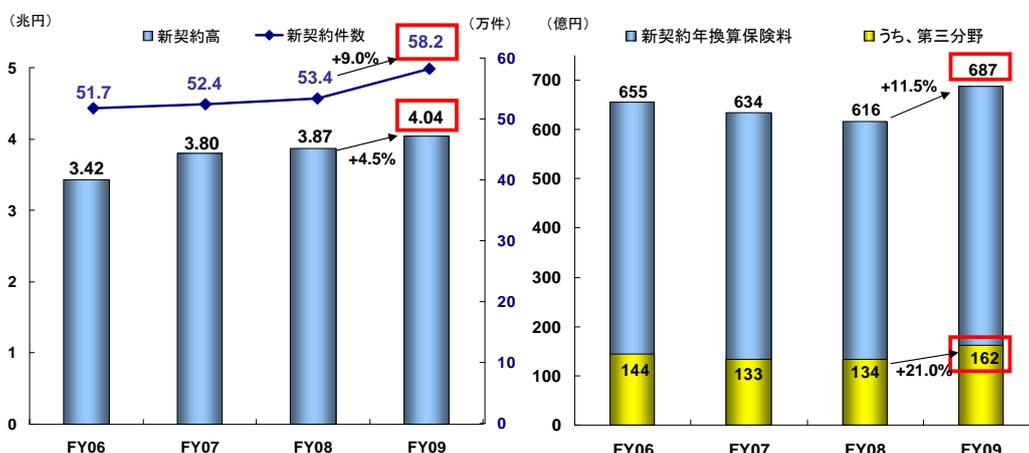
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー生命の主要業績指標につきましては、このスライドに記載の通りでございます。

# ソニー生命の業績(1)

## 新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

## 新契約年換算保険料 (個人保険+個人年金保険)



新契約高は百億円未満切捨て、新契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、前年度に比べ**4.5%**増加し、**4兆4百億円**となりました。第2四半期累計時点では前年を下回っておりましたが、昨年11月に発売した、健康状態が所定の基準を満たすお客さまについて、より割安な保険料でご加入いただける「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の新商品効果により、新契約獲得は回復基調となり、通年では前年比でプラスとなりました。

また、折れ線グラフで示しております新契約件数は、前年度に比べ**9.0%**増加し、**58万2千件**となりました。

### (右側のグラフ)

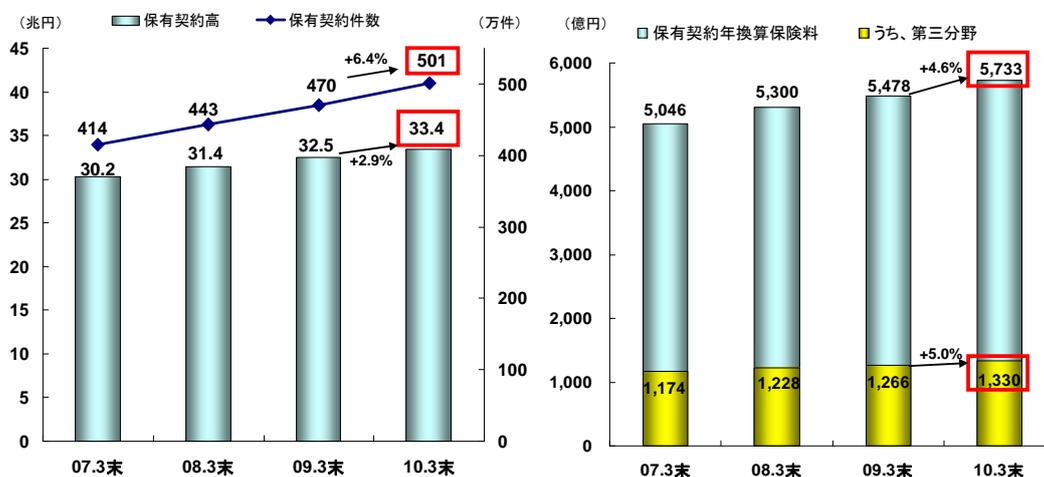
新契約年換算保険料は、**2009年4月**に発売した「がん入院保険」の販売が好調であったことなどにより、前年度に比べ**11.5%**増加し、**687億円**となりました。

うち、第三分野は、「がん入院保険」および「生前給付保険」の販売が好調であったことなどにより、前年度に比べ**21.0%**増加し、**162億円**となりました。

## ソニー生命の業績(2)

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



保有契約高は千億円未満切捨て、保有契約年換算保険料は億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

8

### (左側のグラフ)

棒グラフで示しております個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年度末に比べ**2.9%**増加し、**33兆4千億円**となりました。

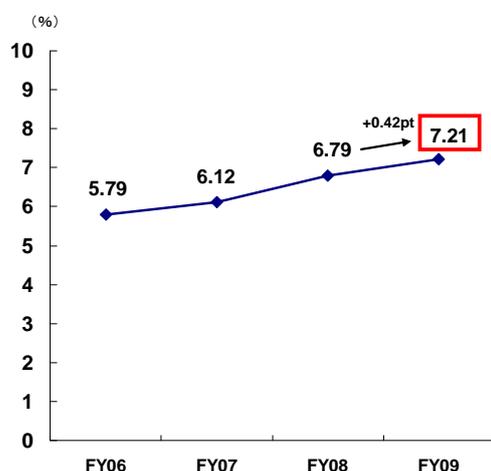
また、折れ線グラフで示しております保有契約件数は、前年度末に比べ**6.4%**増加し、**501万件**となりました。

### (右側のグラフ)

保有契約年換算保険料は、前年度末に比べ**4.6%**増加し、**5,733億円**となり、このうち第三分野は、前年度末に比べ**5.0%**増加し**1,330億円**となりました。

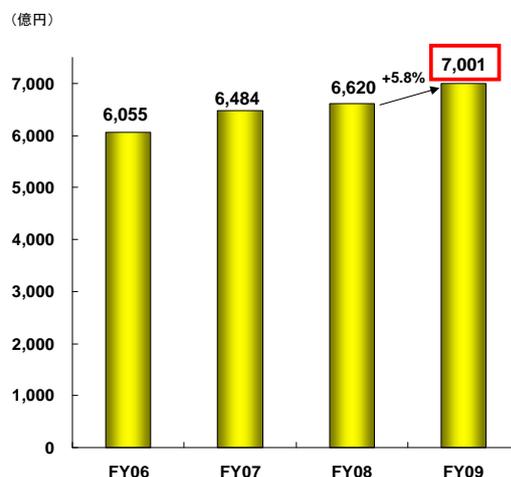
# ソニー生命の業績(3)

## 解約・失効率\*(個人保険+個人年金保険)



\*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出した数値です。

## 保険料等収入



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

解約・失効率は、前年度に比べ**0.42ポイント**上昇し、**7.21%**となりました。

解約・失効率の上昇の主な要因は、昨年11月の「家族収入保険」の優良体・非喫煙者割引特則の新商品発売を機に、一部お客様において、より合理的な保険商品への買い替えがすすんだ影響等があったものと分析しております。

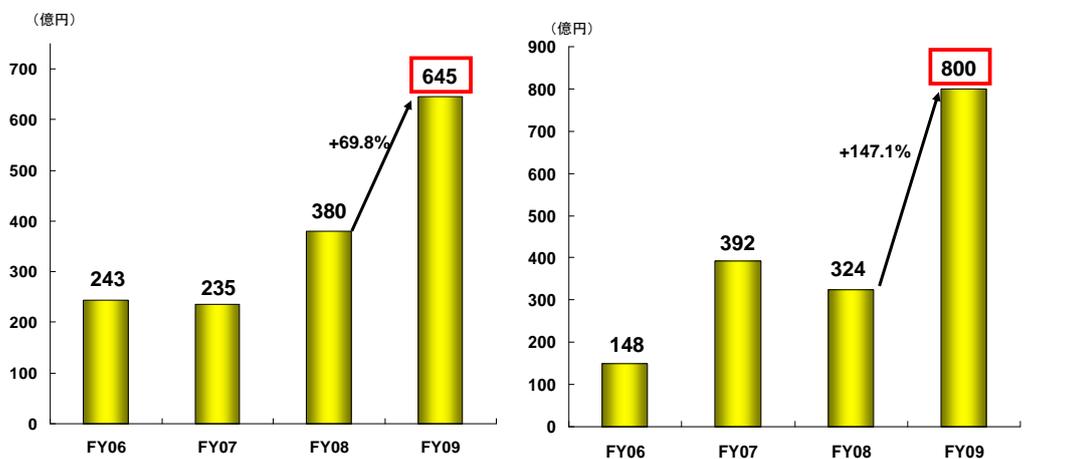
### (右側のグラフ)

保険料等収入は、保有契約高の堅調な推移により、前年度に比べ**5.8%**増加し、**7,001億円**となりました。

## ソニー生命の業績(4)

### 基礎利益

### 経常利益



#### (左側のグラフ)

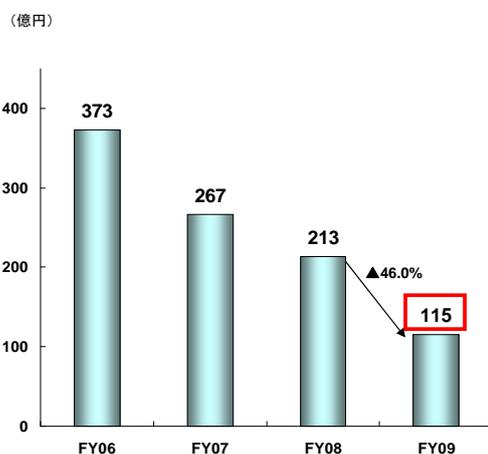
基礎利益は、保険料等収入の増加、利息及び配当金等収入の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が減少したことなどによって、前年度に比べ**69.8%**増加し、**645**億円となりました。

#### (右側のグラフ)

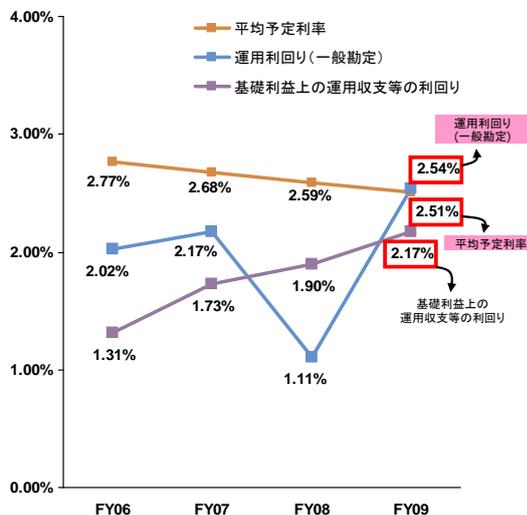
経常利益は、スライド5でご説明のとおり、前年度に比べ**147.1%**増加し、**800**億円となりました。

## ソニー生命の業績(5)

### 逆ざや額



### 平均予定利率に対する基礎利益上の運用収支等の利回り と運用利回り(一般勘定)



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

11

(左側のグラフ)

逆ざや額は、利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年度に比べ**46.0%**減少し、**115億円**となりました。

(右側のグラフ)

当年度の保有契約の平均予定利率は、**2.51%**

一般勘定の運用利回りが、**2.54%**

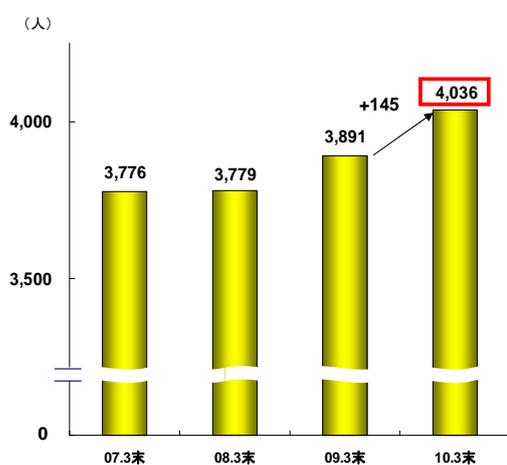
基礎利益上の運用収支等の利回りが、**2.17%**、

となっております。

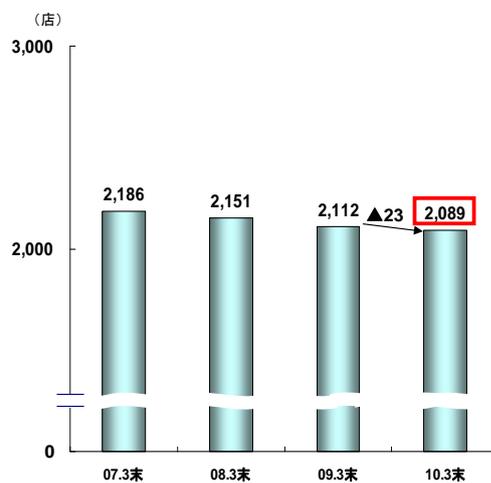
なお、**2008年度**の一般勘定の運用利回りが**1.11%**と前年度から大幅に低下したのは、保有有価証券の減損によるものでした。

## ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数



代理店数



(左側のグラフ)

2010年3月末時点でのライフプランナー在籍数は、前年度末に比べて145人増加し、4,036人となりました。

(右側のグラフ)

代理店数は、前年度末に比べて23店減少し、2,089店となっています。

# ソニー生命の業績(7)

## 一般勘定資産の内訳【実質ベース】

(単位:億円)

	09.3末		10.3末	
	金額	割合	金額	割合
公社債(除く転換社債)	26,550	75.1%	33,104	84.6%
転換社債	2,981	8.4%	132	0.3%
株式	613	1.7%	725	1.9%
外国証券	1,247	3.5%	752	1.9%
約款貸付	1,204	3.4%	1,275	3.3%
不動産	817	2.3%	799	2.0%
現預金・コールローン	580	1.6%	1,164	3.0%
その他	1,361	3.9%	1,174	3.0%
<b>合計</b>	<b>35,357</b>	<b>100%</b>	<b>39,129</b>	<b>100%</b>

### <資産運用状況>

■公社債: 2009年度も超長期債の購入を継続

↓

【債券のDurationを長期化】

08.3末 8.7年

09.3末 13.6年

10.3末 17.6年

満期保有目的の債券は、10.3末で、  
22,756億円(一般勘定資産構成比58.2%)

■転換社債: 2009年度も、残高を大きく圧縮

■株式: 2009年度は、2008年度に圧縮後の  
保有比率を概ね維持

※金銭の信託で運用されている有価証券(公社債、転換社債、株式等)の残高を、各運用資産分類に合算して表示しております。

※ソニー生命の発表資料『平成21年度決算(案)のお知らせ』のP.6 (2)資産の構成では、「金銭の信託」を表示しており、分類が異なります。

前年度末と対比した当年度末の一般勘定資産の内訳はご覧のとおりです。

「金銭の信託」として運用されている運用資産についても有価証券種別に合算した、実質ベースでの一般勘定資産の内訳を表示しております。

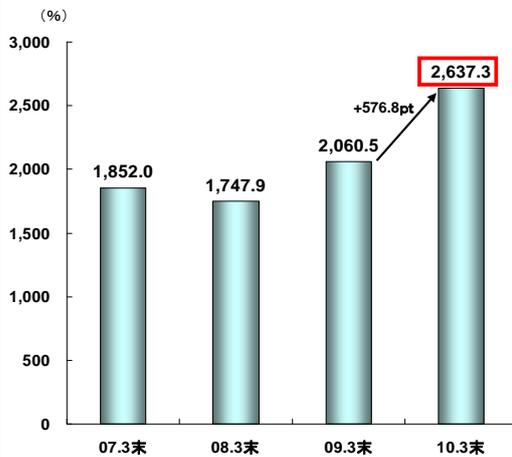
超長期債への投資を推進していることから公社債の比率がより高まり、一方で、既に圧縮した株式についてはほぼ横ばいで推移、転換社債についてはさらに圧縮を進めたことがご覧いただけます。

2010年3月末の一般勘定資産総額に占める公社債の割合は、転換社債を除いたベースで84.6%です。

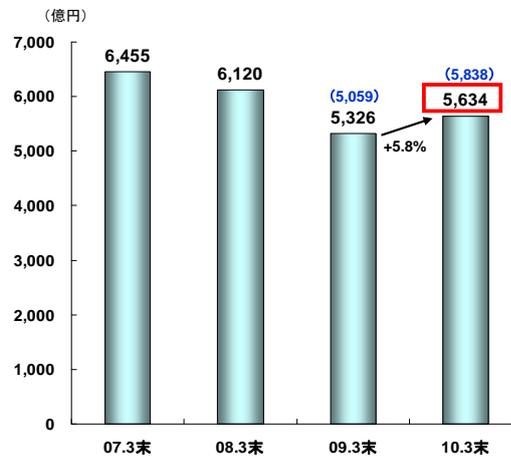
債券のデュレーションの長期化を進めた結果、2010年3月末のデュレーションは17.6年となっております。

# ソニー生命の業績(8)

## ソルベンシー・マージン比率



## 実質純資産



※( )の金額は、満期保有・責任準備金対応債券の含み損益を含まない場合の数値です。

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

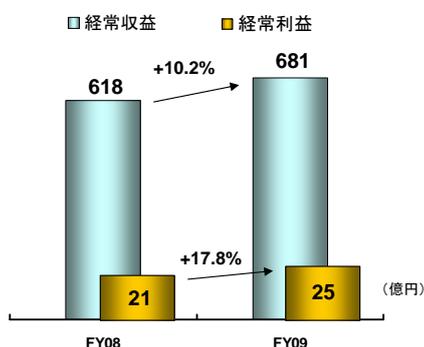
健全性を示す指標のひとつでありますソルベンシー・マージン比率は、増益による資本金等の増加、市場環境の好転によるその他有価証券の評価差額の増加、およびリスク性資産圧縮による資産運用リスクの低下などにより、2009年3月末に比べて**576.8**ポイント上昇し、**2,637.3%**となりました。

### (右側のグラフ)

実質純資産につきましては、前年度は大幅な減損の計上によって減少となりましたが、当年度は増加に転じました。

ソニー生命は引き続き財務基盤の健全性の維持に努めてまいります。

# ソニー損保 業績ハイライト



## 【ソニー損保】

- ◆ 前年度比 増収増益
- ◆ 経常収益は前年度比10.2%増加の681億円。  
主力の自動車保険で新規契約獲得が好調に推移して保有契約件数が増加したことにより、正味収入保険料が増加。
- ◆ 経常利益は前年度比17.8%増加の25億円。  
上記増収と事業費率の低下などによる。

(億円)	FY08	FY09	前年度比	
経常収益	618	681	+62	+10.2%
保険引受収益	611	674	+63	+10.4%
資産運用収益	7	6	▲0	▲5.0%
経常費用	597	656	+59	+9.9%
保険引受費用	442	491	+49	+11.3%
資産運用費用	1	0	▲1	▲92.6%
営業費及び一般管理費	153	163	+10	+7.1%
経常利益	21	25	+3	+17.8%
当期純利益(▲は純損失)	▲15	16	+31	—

(億円)	09.3末	10.3末	前年度末比	
責任準備金残高	507	581	+73	+14.4%
純資産額	136	154	+18	+13.2%
其他有価証券評価差額金	▲1	0	+1	—
総資産額	866	983	+116	+13.4%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー損保の経常収益は、主力の自動車保険を中心に契約獲得が好調に推移し正味収入保険料が増加したことから、前年度に比べ**10.2%増加の681億円**となりました。

経常利益は、正味損害率が上昇したものの、保険料収入の増加および正味事業費率の低下などにより、**17.8%増加の25億円**となりました。

当期純損益は、前年度の**15億円**の純損失に対し当年度は**16億円**の純利益となりました。これは主に、固定資産処分損等の特別損失が前年度から大幅に減少したことによるものです。

# ソニー損保 主要業績指標



(単位: 億円)

	FY08	FY09	増減率
元受正味保険料	608	<b>670</b>	+10.2%
正味収入保険料	611	<b>674</b>	+10.4%
正味支払保険金	299	<b>345</b>	+15.4%
保険引受利益	16	<b>19</b>	+18.9%
正味損害率	55.0%	<b>57.2%</b>	+2.2pt
正味事業費率	26.7%	<b>26.1%</b>	▲0.6pt
コンパインド・レシオ	81.7%	<b>83.3%</b>	+1.6pt

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

	09.3末	10.3末	前年度末比	
			増減数	増減率
保有契約件数	115万件	<b>127万件</b>	+12万件	+10.6%
ソルベンシー・マージン比率	993.0%	<b>1,018.5%</b>	+25.5pt	

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。

金額は億円未満切捨て、件数は1万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

16

ソニー損保の主要業績指標はスライドに記載のとおりです。  
 次のスライドには、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の  
 種目別内訳を記載しておりますのでご覧ください。

# ソニー損保 種目別保険引受の状況



## 元受正味保険料

	FY08	FY09	増減率
火災	379	278	▲26.6%
海上	—	—	—
傷害	6,653	6,941	+4.3%
自動車	53,835	59,849	+11.2%
自賠責	—	—	—
合計	60,868	67,069	+10.2%

## 正味収入保険料

(単位:百万円)

	FY08	FY09	増減率
火災	18	12	▲32.9%
海上	41	2	▲94.2%
傷害	6,932	7,168	+3.4%
自動車	53,619	59,604	+11.2%
自賠責	493	651	+32.0%
合計	61,106	67,440	+10.4%

## 正味支払保険金

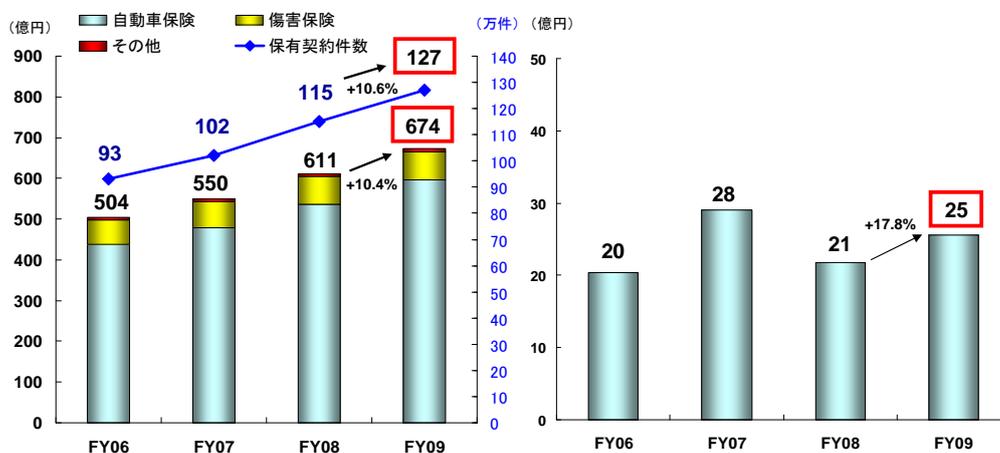
	FY08	FY09	増減率
火災	0	0	+45.9%
海上	12	2	▲76.6%
傷害	1,368	1,479	+8.1%
自動車	28,088	32,555	+15.9%
自賠責	484	535	+10.5%
合計	29,952	34,573	+15.4%

金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

# ソニー損保の業績(1)

## 正味収入保険料と保有契約件数

## 経常利益



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険。

金額は億円、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

### (左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で前年度末に比べ**10.6%**増加し、**127**万件となりました。

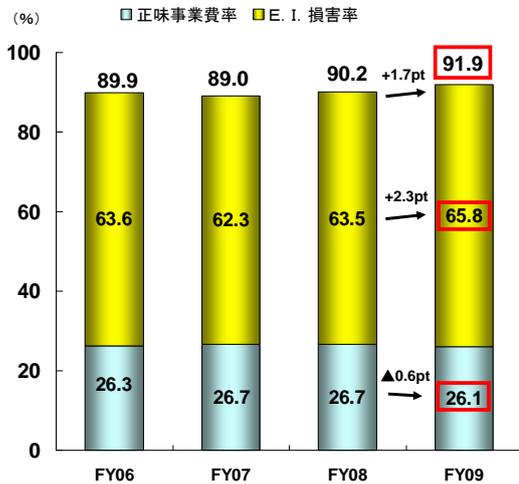
正味収入保険料は前年度に比べ**10.4%**増加し、**674**億円となりました。

### (右側のグラフ)

経常利益は先のご説明のとおり、前年度に比べ**17.8%**増加し、**25**億円となりました。

## ソニー損保の業績(2)

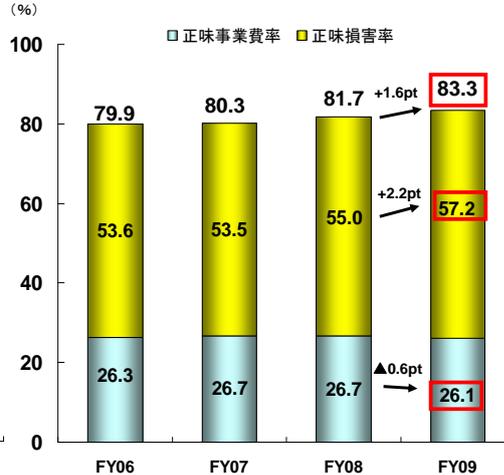
### 正味事業費率+E.I.損害率



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料  
※除く地震保険、自賠責保険

### <参考>

### コンバインド・レシオの推移 (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料  
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

#### (左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、損害率を発生ベースでみた、スライドでE.I.損害率と記載しておりますアード・インカード損害率についてご説明します。

当年度のアード・インカード損害率は、事故発生率の上昇などにより保険金支払いが増加し、前年度に比べ**2.3ポイント**上昇し**65.8%**となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加もあり、**0.6ポイント**低下の**26.1%**となりました。

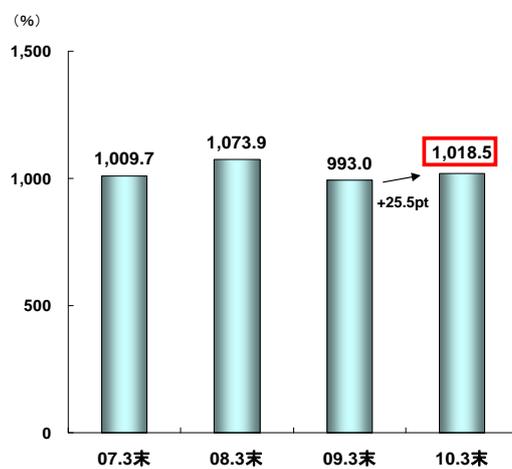
#### (右側のグラフ)

正味損害率は、保険金支払いが増加したことなどにより前年度に比べ**2.2ポイント**上昇の**57.2%**となりました。正味損害率は、支払備金繰入額などを反映していない点で、アード・インカード損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、**1.6ポイント**上昇の**83.3%**となりました。

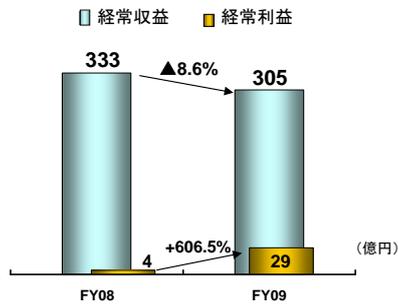
## ソニー損保の業績(3)

### ソルベンシー・マージン比率



当年度末のソルベンシー・マージン比率は前年度末に比べ、25.5ポイント上昇の1,018.5%となりました。引き続き健全な水準を維持しております。

# ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



## 【ソニー銀行】

- ◆前年度比 減収増益
- ◆業務粗利益は、資金運用収支が増加したことにより、前年度比40億円増加
  - 資金運用収支: 預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および貸出金利の増加などにより、63億円増加
  - その他業務収支: 主に外貨預金の運用による外国為替売買益が市場金利低下により減少したこと、ヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損益が悪化したことなどから、17億円減少
- ◆当期純利益は前年度の純損失7億円から16億円の純利益へ
- ◆預かり資産残高は前年度末比2,064億円増加

(億円)	FY08	FY09	前年度比	
経常収益	333	305	▲28	▲8.6%
業務粗利益	108	149	+40	+37.6%
資金運用収支	66	130	+63	+96.1%
役員取引等収支	3	▲1	▲5	-
その他業務収支	39	21	▲17	▲45.6%
営業経費	103	116	+13	+13.3%
経常利益	4	29	+25	+606.5%
当期純利益(▲は純損失)	▲7	16	+23	-
業務純益	5	32	+26	+506.1%

(億円)	09.3末	10.3末	前年度末比	
有価証券残高	8,231	8,801	+569	+6.9%
貸出金残高	4,770	5,866	+1,095	+23.0%
預金残高	13,263	15,100	+1,836	+13.8%
預かり資産残高	14,036	16,100	+2,064	+14.7%
純資産額	462	589	+127	+27.5%
その他有価証券評価差額金	▲96	9	+105	-
総資産額	14,119	16,121	+2,002	+14.2%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

ソニー銀行単体の経常収益は、世界的な金利低下の影響などにより、前年度と比べ**8.6%減少**し、**305億円**となりました。

業務粗利益は、前年度と比べて**37.6%増加**し、**149億円**となりました。

主な要因は、預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および住宅ローン残高の増加による貸出金利息の増加などにより資金運用収支が増加したことです。

営業経費は、システム関連費用などの増加により前年度に比べて**13.3%増加**し、**116億円**となりました。

以上の結果、経常利益は、前年度と比べて**25億円増加**し、**29億円**となりました。当期純利益は、経常利益が増加したことにより、**16億円**となりました。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(億円)

	09.3末	10.3末	前年度末比	
			増減額・数	増減率
預かり資産残高	14,036	16,100	+2,064	+14.7%
預金	13,263	15,100	+1,836	+13.8%
円預金	10,442	11,849	+1,407	+13.5%
外貨預金	2,821	3,250	+429	+15.2%
投資信託	772	1,000	+227	+29.4%
貸出金残高	4,770	5,866	+1,095	+23.0%
住宅ローン	4,683	5,551	+867	+18.5%
その他	87	315(*1)	+227	+260.0%
口座数	72.3万件	79.6万件	+7.2万件	+10.0%
自己資本比率(国内基準)(*2)	13.37%	12.09%	▲1.28 pt	

(\*1) うち、233億円は法人向け

(\*2) P.26 自己資本比率(国内基準)の推移参照

金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

22

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドのとおりでございます。

# ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



## ■<ご参考>社内管理ベース

(億円)

	FY08	FY09	前年度比	
業務粗利益	108	149	+40	+37.6%
資金収支*1 ①	121	137	+15	+12.7%
手数料等収支*2 ②	18	9	▲9	▲48.9%
その他収支*3	▲31	2	+34	—
コアベース業務粗利益(A) = ①+②	140	146	+6	+4.4%
営業経費等 ③	103	117	+14	+13.8%
コアベース業務純益 = (A)-③	37	29	▲8	▲21.7%

### ●社内管理ベース

損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

\*1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)

\*2 手数料等収支…役務取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益

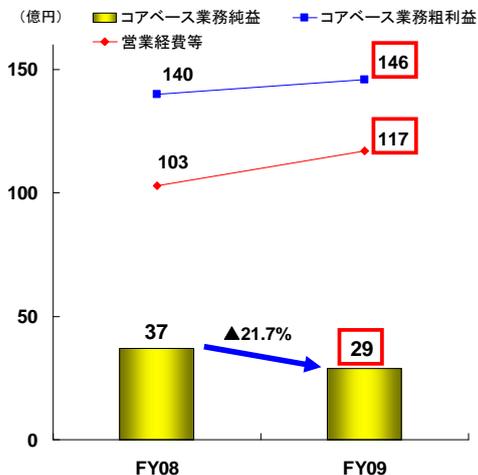
\*3 その他収支…その他業務収支より\*1と\*2の調整を控除したもの  
主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

### ●コアベース

社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

## <ご参考>

コアベース業務粗利益、営業経費等、コアベース業務純益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

23

このスライドでは、本業の収益力をより適切にご理解いただけるよう、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明します。

(左側のテーブル)

資金収支は、預金金利の低下による支払い利息の減少、および住宅ローン増加による貸出金受取利息の増加により、前年度に比べて15億円増加し、137億円となりました。

手数料等収支は、主にお客さまとの外貨売買取引にかかる収益を調整したものです。こちらは、外貨売買取引の減少や、住宅ローン取扱いにかかる費用の増加などにより、前年度に比べて9億円減少し、9億円となりました。

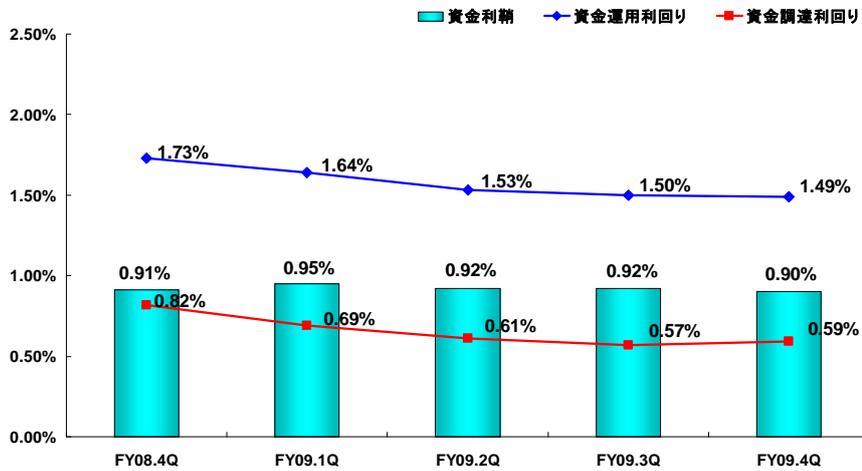
その結果、資金収支および手数料等収支からなる、銀行の本源的な収益動向を表すコアベースの業務粗利益は、前年度に比べて6億円増加し、146億円となりました。

(右側のグラフ)

資金収支は増加したものの、手数料等収支の悪化や営業経費等の増加により、コアベースでの業務純益は前年度に比べて8億円減少し、29億円となりました。

# ソニー銀行の業績(1)

## ＜ご参考＞資金利鞘の推移(社内管理ベース)



資金利鞘 = 資金運用利回り - 資金調達利回り  
資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれております。

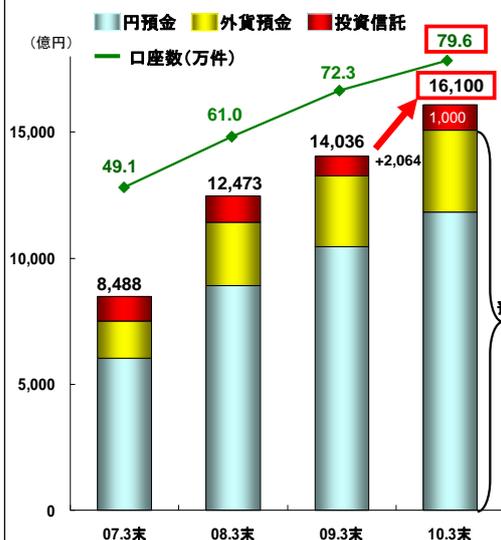
社内管理ベースの資金利鞘についてご説明します。

世界的な金利低下を受けて、青い折れ線グラフで示しております資金運用利回りと、赤い折れ線グラフで示しております資金調達利回りは、ともに下落傾向が続いております。

棒グラフで表示しております、資金運用利回りから資金調達利回りを差し引いた資金利鞘は0.9%台で安定的に推移しております。

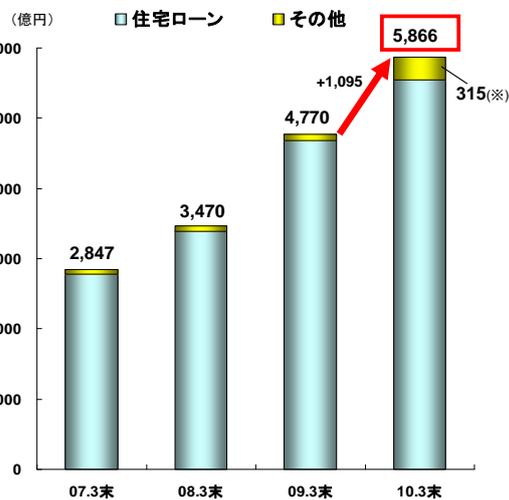
## ソニー銀行の業績(2)

### 預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



### 貸出金残高

(※)うち233億円は法人向け



金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て

25

業容の推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

当年度末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、2009年3月末と比べて2,064億円増加し、1兆6,100億円となりました。

円預金と外貨預金を合計した預金残高は、昨年12月に開始したボーナスシーズンにおいて設定した特別金利の効果で円預金が伸びたことから、2009年3月末に比べて1,836億円増加し、1兆5,100億円となりました。

投資信託の残高は、227億円増加し、1,000億円となりました。

また、口座数は、7万2千件増加し、79万6千件となりました。

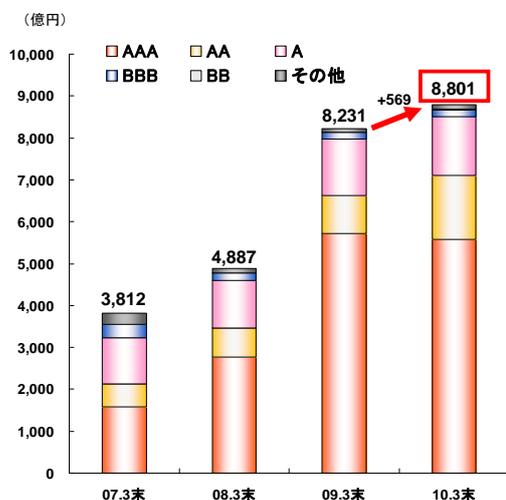
(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローン残高の順調な伸びに加え、昨年10月に開始したシンジケート・ローンを中心とする法人融資の残高が233億円となったことにより、2009年3月末と比べ1,095億円増加し、5,866億円となりました。

# ソニー銀行の業績(3)

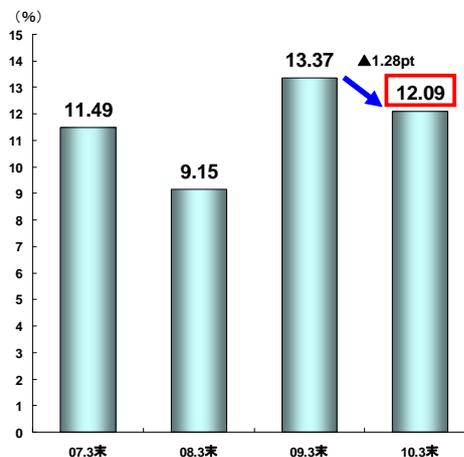


## 格付別の有価証券残高の推移



金額は億円未満切捨て

## 自己資本比率(国内基準)の推移



※2008年度に、ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする120億円の増資を実施しております。

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。なお、平成21年3月期より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用しております。

(左側のグラフ)

2010年3月末の有価証券残高は、2009年3月末と比べ569億円増加し、8,801億円となりました。

引き続き、高格付けの債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2009年3月末と比べ1.28ポイント減少して、12.09%となりましたが、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

# 2010年度連結業績予想

	FY09	FY10 (中間期予想)	FY10 (通期予想)	増減率 FY09 vs FY10(通期)
<b>連結経常収益</b>	<b>9,789</b>	<b>4,830</b>	<b>9,740</b>	<b>▲0.5%</b>
うち生命保険事業	8,820	4,321	8,713	▲1.2%
うち損害保険事業	681	365	727	+6.6%
うち銀行事業	305	148	306	+0.3%
<b>連結経常利益</b>	<b>843</b>	<b>410</b>	<b>740</b>	<b>▲12.3%</b>
うち生命保険事業	797	396	696	▲12.8%
うち損害保険事業	25	7	22	▲14.2%
うち銀行事業	19	12	28	+45.2%
<b>連結当期純利益</b>	<b>481</b>	<b>230</b>	<b>400</b>	<b>▲16.9%</b>

(単位: 億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

### ■生命保険事業

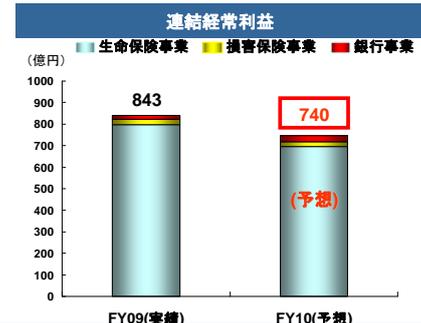
経常収益は、保有契約高が堅調に推移し保険料等収入が増加すると見込む一方で、金融市場環境の回復の影響を受けた2009年度に対し、資産運用収益の減少を見込んでいることから若干の減収を見込む。経常利益は、保有有価証券の売却益の減少および保険金等の支払の増加が見込まれることなどから、減益を見込む。

### ■損害保険事業

経常収益は、主力の自動車保険を中心に業容が順調に拡大すると見込み、増収を見込む。経常利益は、経常収益の増加を見込む一方、損害率が上昇する見込みであることおよび事業費率も規模拡大を前提に体制・基盤を強化することによる上昇を見込むことなどから、減益を見込む。

### ■銀行事業

経常収益は、世界的な金利低下の影響は残るものの、業容拡大にともない資金運用収益が増加が見込まれることから、若干の増収を見込む。経常利益は、資金運用収支を中心に業務粗利益が増加すると見込み、増益を見込む。



2010年度の連結業績予想について、ご説明いたします。

各事業ともに業容を順調に拡大していくと見込んでいるものの、生命保険事業において金融市場環境の回復の影響を受けた2009年度に対し、資産運用収益の減少を見込んでいることを主たる要因として、連結経常収益は若干の減少を見込みます。

連結経常利益は、主に生命保険事業において保有有価証券の売却益の減少および保険金等の支払いの増加が見込まれることなどから、減益を見込みます。

## ソニー生命の2010年3月末MCEV【速報】

ソニー生命の2010年3月末MCEV【速報】

## ソニー生命の2010年3月末MCEV計算結果【速報】

### □MCEVの計算結果【速報】 (億円)

項目	09.3末	10.3末	増減
MCEV	4,009	8,940	+4,931
修正純資産	1,954	2,062	+108
既契約価値	2,054	6,878	+4,824
うち、新契約価値	154	556	+402

◆金利スワップレートのイールドカーブのスティープ化<sup>(※)</sup>が寄与。また、2010年3月15日のプレスリリース『資産運用方針変更等によるソニー生命のMCEVへの影響について』にて発表したとおり、MCEVの減算項目であるオプションと保証の時間価値が大幅に低下したことも、MCEVの増加に寄与。

◆本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。  
2010年3月末時点のEuropean Insurance CFO Forum Market Consistent Embedded Value Principles<sup>©</sup>(MCEV principles)に準拠したMCEVの公表は、2010年5月28日を予定しております。

※長期金利が短期金利に比べて相対的に上昇すること

Copyright © Stichting CFO Forum Foundation 2008

29

最後に、ソニー生命の2010年3月末のMCEV、市場整合的エンベディッド・バリュウの速報値についてご説明します。

当社では、決算発表の本日、投資家の皆さまに対して適時・適切な情報開示を積極的に行なうために、MCEV速報をお知らせいたします。

2010年3月末のソニー生命のMCEVは、前年度末に比べて4,931億円増加し、8,940億円となりました。また、新契約価値も、402億円増加して556億円となりました。

金利スワップレートのイールドカーブのスティープ化など市場環境の変化によって、既契約価値が大きく増加したことがMCEVの増加に貢献しました。

なお、本計算の妥当性については第三者の検証を受けていないことに十分ご注意ください。センシティブティや前年度からの変動要因分析など含む、第三者の検証を受けた正式な計算結果は、5月28日に開示予定です。

以上で、ご説明を終了します。

ありがとうございました。

## 補足資料

補足資料

# ソニー生命の保有する有価証券の時価情報



## 有価証券の時価情報

### ●売買目的有価証券を除く有価証券の時価情報のうち、時価のあるもの

(単位:億円)

区 分	09.3末			09.6末			09.9末			09.12末			10.3末		
	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益	帳簿 価額	時 価	差損益
満期保有目的の債券	13,990	14,257	267	16,413	16,437	24	17,778	17,824	46	20,074	19,995	▲ 79	22,756	22,551	▲ 204
その他有価証券	16,755	16,997	242	14,722	15,168	445	14,184	14,706	521	13,059	13,582	523	11,265	11,669	404
公社債	15,469	15,739	269	13,529	13,872	342	13,250	13,699	448	12,168	12,620	452	10,615	10,900	284
(うち転換社債)	2,977	2,765	▲ 212	2,104	2,023	▲ 80	1,596	1,568	▲ 27	775	784	9	136	132	▲ 3
株式	569	583	14	569	684	115	407	484	77	516	581	65	517	621	104
外国証券	642	605	▲ 36	549	528	▲ 20	474	460	▲ 14	323	316	▲ 7	80	80	▲ 0
その他の証券	74	68	▲ 5	74	83	9	51	61	9	51	63	12	51	67	15
合 計	30,745	31,254	509	31,135	31,605	470	31,962	32,530	568	33,134	33,578	443	34,021	34,221	199

### ●売買目的有価証券の評価損益

09.3末		09.6末		09.9末		09.12末		10.3末	
BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益	BS計上額	PL評価損益
228	▲ 43	47	53	7	56	3	56	-	57

※金銭の信託に含まれているものも含む。2010年3月末時点で、ソニー生命が保有する転換社債の加重平均価格は**98.6円**、平均残存期間は**3.6年**(フット条項を行使した場合の平均残存期間は**1.8年**)

金額は億円未満切捨て

(ソニー生命の有価証券の時価情報)

※(注) 一般勘定の差損益は、2010年3月末の時価から2010年3月末の簿価を控除して算出しております。

# ソニー生命の純資産(指標別)の明細



## 純資産(BS上)／実質純資産／ソルベンシー・マージン

(単位:億円)	①純資産(BS上)		②実質純資産		③ソルベンシー・マージン		備考
	09.3末	10.3末	09.3末	10.3末	09.3末	10.3末	
株主資本合計	1,381	1,773	1,381	1,773	1,311	1,703	③社外流出予定額控除後
その他有価証券評価差額金	40	154	40	154	-	-	
その他有価証券の含み損益	-	-	-	-	176	330	③税引前の90%
土地再評価差額金	▲14	▲14	▲14	▲14	-	-	
価格変動準備金	-	-	36	96	36	96	
危険準備金	-	-	454	484	454	484	
一般貸倒引当金	-	-	-	-	0	0	
土地の含み損益	-	-	65	26	48	16	②税引前(再評価後) ③税引前(再評価前)の85%
全期テメル式責任準備金 相当額超過額	-	-	3,022	3,165	3,022	3,165	
配当準備金未割当部分	-	-	3	23	3	23	
将来利益	-	-	-	-	-	10	
税効果相当額	-	-	-	-	257	472	
満期保有債券の含み損益	-	-	267	▲204	-	-	②税引前
その他有価証券に係る 繰延税金負債	-	-	69	128	-	-	
合計	1,407	1,913	5,326	5,634	5,313	6,302	

※②実質純資産において、満期保有・責任準備金対応債券の含み損益を含まない場合の合計値は、09.3末:5,059億円、10.3末:5,838億円です。

金額は億円未満切捨て

(ソニー生命の純資産(指標別)の明細)

## ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移

項目	09.03末	09.06末	09.09末	09.12末	10.03末	(単位:億円)
ソルベンシー・マージン総額 (A)	5,313	5,724	6,007	6,256	6,302	
資本金等	1,311	1,430	1,529	1,633	1,703	
価格変動準備金	36	50	63	79	96	
危険準備金	454	462	469	478	484	
一般貸倒引当金	0	0	0	0	0	
その他有価証券の評価差額×90%(マイナスの場合100%)	176	347	416	430	330	
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	48	48	48	48	16	
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	3,022	3,055	3,094	3,128	3,165	
配当準備金未割当部分	3	3	3	17	23	
将来利益	-	-	-	-	10	
負債性資本調達手段等	-	-	-	-	-	
税効果相当額	257	325	381	440	472	
控除項目	-	-	-	-	-	
リスクの合計 $\sqrt{R_1^2+R_2^2+R_3^2+R_4^2+R_5^2+R_6^2+R_7^2}$ (B)	515	505	493	486	477	
保険リスク相当額 $R_1$	185	187	188	190	191	
第三分野保険の保険リスク相当額 $R_5$	70	70	71	71	70	
予定利率リスク相当額 $R_2$	112	112	112	113	113	
資産運用リスク相当額 $R_3$	246	231	214	202	189	
経営管理リスク相当額 $R_4$	13	13	13	13	12	
最低保証リスク相当額 $R_7$	72	74	76	78	80	
ソルベンシー・マージン比率 (A)/(1/2×(B))×100	2,060.5%	2,264.3%	2,433.8%	2,570.9%	2,637.3%	金額は億円未満切捨て

(ソニー生命のソルベンシー・マージン比率の推移)

## その他トピックス(1)

### ソニーライフ・エイゴン生命が営業開始

営業開始：2009年12月1日

資本金：200億円（資本準備金100億円を含む）

株主：ソニー生命保険 50%

エイゴン・インターナショナルB.V. 50%

取扱商品：「ウイニングロード（変額個人年金保険 受取総額保証型）」、「マイヒストリー（変額個人年金保険 受取総額保証型）」、「  
「ヴィクトリーラン（変額個人年金保険 年金原資保証型）」

販売チャネル：ライフプランナーおよび銀行（東京スター銀行、三井住友銀行、みなと銀行、福島銀行）※2010年5月20日現在

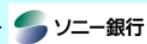
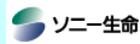
販売状況：2009年12月～2010年3月末の販売実績・・・件数：467件 / 新契約保険料：74億4159万円



### ソニー生命のライフプランナーが取扱う、ソニー銀行の住宅ローン

■住宅ローン新規融資実行金額の約37%

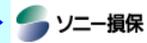
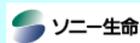
※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



### ソニー生命のライフプランナーが取り扱う、ソニー損保の自動車保険

■新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月



## その他トピックス(1)

## その他トピックス(2)

### <2009年度以降の主な取り組み>

- 2009年 4月 2日 ソニー生命、『がん入院保険』『先進医療特約』『入院時手術給付特約』の販売を開始
- 2009年 4月10日 SFH、社債発行にかかる発行登録に関するお知らせ
- 2009年 5月11日 ソニー損保、ウェブサイトにて海外旅行保険の販売を開始
- 2009年 7月 1日 ソニー生命、台北駐在員事務所を開設
- 2009年 7月 1日 ソニー損保、携帯電話のGPS位置情報サービス機能の利用を開始
- 2009年 8月24日 ソニー銀行、ソニーバンク証券との金融商品仲介サービスにおいて『信用取引』の取り扱いを開始
- 2009年10月 ソニー銀行、シンジケート・ローン業務に参入
- 2009年10月 1日 ソニー損保、契約手続に関する電子メールの問合せ(平日9:00~17:00受信分)への3時間以内の返信をお約束するサービスを開始
- 2009年10月13日 ソニー損保、「じぶん銀行」の携帯電話ウェブサイトを通じて自動車保険の商品確認と資料請求を可能にするサービスを開始
- 2009年11月 ソニー損保、2010年2月1日以降が保険開始日となる契約を対象に、自動車保険およびがん重点医療保険の一部改定を実施
- 2009年11月 2日 ソニー生命、「優良体・非喫煙者割引特則」の販売を開始
- 2009年12月 1日 ソニーライフ・エイゴン生命、ソニー生命のライフプランナーによる販売を開始
- 2009年12月 7日 ソニー銀行、株式会社エフアンドエムが銀行代理による住宅ローンの取り扱いを開始
- 2009年12月 8日 ソニーライフ・エイゴン生命、東京スター銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2009年12月14日 ソニーバンク証券、「CFD取引」サービスを開始
- 2010年 1月18日 ソニー銀行、ソニーバンク証券との金融商品仲介サービスにおいて携帯電話からの株式取引サービスを開始
- 2010年 1月21日 ソニー生命、エイゴン・インターナショナル B.V.との合併で再保険会社を設立し、免許登録を完了
- 2010年 2月22日 ソニーライフ・エイゴン生命、三井住友銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 3月31日 ソニー損保、福岡銀行を通じた自動車保険の販売を開始
- 2010年 4月 1日 ソニーライフ・エイゴン生命、みなと銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 4月12日 ソニー損保、横浜銀行を通じた自動車保険の販売を開始
- 2010年 4月19日 ソニーライフ・エイゴン生命、福島銀行を代理店とする変額個人年金保険の販売を開始
- 2010年 5月 1日 ソニー生命、100%子会社の来店型店舗『リブラ』の営業を開始
- 2010年 5月 1日 ソニー損保、多摩信用金庫を通じた自動車保険の販売を開始

## その他トピックス(2)



**お問い合わせ先:**

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部  
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部  
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報・CSR部  
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当  
TEL:03-6832-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの  
お問合せで、個別各社の事業に関する場合は各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先